

ネアックルン橋 建設工事



三井住友建設株式会社国際支店 ネアックルン橋作業所 所長

北田 郁夫

Ikuro Kitada



世界で活躍する
日本の建設企業

主橋パース(3径間連続PC斜張橋)
(提供: JICA (独立行政法人 国際協力機構))



河川内での場所打ち杭施工状況



プロジェクト全体鳥瞰図(東岸より望む) (提供: JICA (独立行政法人 国際協力機構))

プロジェクトの紹介

カンボジア王国は、人口一、四〇〇万人、面積一八万平方キロメートルで国土の中心部を国際河川のメコン川が南北に縦断しています。産業は農業をはじめとした第一次産業が中心で、一人当たりの国内総生産(GDP)は八一〇ドルと比較的小さな経済規模の開発途上国です。しかし、近年は世界遺産アンコールワットを中心とした観光業や同国最大の輸出産業となった縫製業が発展諸外国からの投資が隣国のタイやベトナムと同様に増加しています。

当プロジェクトは、発展を続けるASEAN諸国の物流の生命線である「南部経済回廊(ホーチミン-プノンペン-バンコク)」のメコン川渡河地点に日本の無償資金協力によって斜張橋を建設するものです。現在はフェリーが運航しており、一〇分程度で渡河できますが、一度に積載できる車輛が制限されるため、待ち時間を含めた所要時間は三〇分程度から、混雑時は数時間に及ぶこともあります。また、深夜十二時から早朝五時まではフェリーの運航がありません。このように渡河地点が交通のボトルネックとなっていること、さらに、今後の経済発展に伴う交通量の増加が見込まれることから、本橋の早期開通が望まれています。

工事概要

本工事は、メコン川に架かる橋長六四〇メートルの三径間連続PC斜張橋を中心に西岸九〇〇メートル東岸六七五メートルのアプローチ橋(PCI型合成桁橋)および西岸八四〇メートル東岸二、三四五メートルのアプローチ道路(盛土区間)からなる全長五・四キロメートルのプロジェクトです。



メコン川を渡河するフェリー

川の二二本の場所打ち杭で支持されています。

トピックス

二〇一二年十月現在、工事は河川内の主塔基礎を構築中です。架橋地点のメコン川は、水深が二〇メートルから二五メートルあり、流速は増水期には五ノット(秒速約二・五七メートル)に達します。この厳しい条件下での場所打ち杭の施工は、日本でも稀な難工事です。この難工事に、四、〇〇〇トン級のクレーンバージ二隻をはじめ、コンクリートプラント船、材料運搬船など一〇隻以上の作業船を近隣諸国およびカンボジア国内から調達し施工を行っています。また、従業員の国籍は日本、シンガポールをはじめ、一〇カ国に及ぶ陣容となっています。

二〇一三年には、主塔の構築が開始され、上部工の施工に進み、二〇一五年の開通を目指しています。当プロジェクトは、域内の経済発展に寄与することを期待されるとともに、カンボジア王国初の長大斜張橋となることから、同国への建設技術移転についても期待されています。現在、本工事に従事するカンボジア人技術者は二十代の若者が多いことから、彼らをこれからのカンボジア王国の経済発展、国土開発に貢献できる人材に育てることも我々の重要な使命と考えています。